



# 救援対策本部通信

発行所: 社会福祉法人・学校法人イエス団 救援対策本部 発行者: 対策本部長 平田 義  
 〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20 TEL: 078-221-9565 FAX: 078-221-9566  
[http:// www.jesusband.jp](http://www.jesusband.jp) e-mail: honbu@jesusband.jp

平素は、社会福祉法人・学校法人イエス団の働きにご理解、ご協力いただき厚く御礼申し上げます。

イエス団では、東日本大震災（2011年）発生後、また熊本地震（2016年）発生後にそれぞれ「救援対策本部」を立ち上げ、子どもや高齢者、障がい児者等、より厳しい環境に置かれた方々への支援を行ってまいりました。現在も物品販売協力や職員派遣等を行い、息の長い支援活動となっています。

今回の『救援対策本部通信』は、東日本の今の状況をお伝えしたいという思いからスタートしました。福島県南相馬市にある原町聖愛こども園園長の遠藤美保子さん、「ふくしま・こうべこどもプログラム」実行委員会委員長の上内鏡子さん、お二人にご協力いただき今の福島についてお話を伺いましたので、是非ご覧ください。

イエス団では、これからも私たちにできることを考え、実行してまいります。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしく願いいたします。

## 1 福島の実状

### 原発事故から6年半

社会福祉法人ちいろば会 原町聖愛こども園  
 園長 遠藤美保子さん



「そんなに放射能が心配ならここに住まなければいいんだ!」「まだそんなこと言ってんの…?!」。少し前まではよく聞かれた言葉ですが、今は聞かれなくなりました。職員や保護者からも聞くことはありません。それは、南相馬市や福島県の放射能の問題が解決したのではなく、時間の経過とともに生活が落ち着いてきたこと、心配や不安があっても素直に言葉にしにくくなっているからだと思います。

私は8月に、会津若松市のある園を訪問する機会がありました。その園の保護者の一人は今も、給食メニューと同じ物をお弁当に作って、子どもに持たせていると聞きました。また園の園外保育の際には、事前に目的の場所の放射線

量を測定して結果を保護者に示しながら、了解を得て場所を決めているということです。話を伺ってお母さんの精神面が心配になりましたが、特に変わったことはないと思われる、園長先生が話されていました。

放射能による健康への影響はない、と断言できる人はいないのでお母さんの心配も理解できます。

一人だけなら我慢して貰うとか、園行事に参加しない選択をされてもいい、とすると少数派は排除されてしまうことにはなりますが、この園では、一人に寄り添う保育をされていました。信仰による保育が実践されている素晴らしさの一方で、先生方のストレスはないのかと案じま

した。しかしこのような配慮があることで、原発事故から6年以上経っても払拭できない放射能に対する不安の中で、精神が安定して子育てができていたとも思いました。

放射能に対する受け止め方や理解の仕方、おかれた状況は一人一人が本当に違います。ですから心配や不安もそれぞれに違います。時間の経過とともに解決したこと、逆に影に隠れて見えにくくなってしまったことなど、課題は様々な形で残されています。

当園では、給食食材を県外産の物とミネラルウォーターの使用を、ご支援によって今も続けています。

切り替えの時期は、毎年実施する家庭へのアンケートの結果と南相馬市の学校食給食食材の県内・地元産利用が再開したら、それも参考に検討する予定です。

また、園外保育は再開していません。周辺の放射能の数値は自然減衰もあり低くなりましたが、園近くの公園には今年も、 $1\mu\text{Sv/h}$ 以上のホットスポットがあります。園外に出るか出な

いかは各園の判断に任されていますので、南相馬市内の他園では、3年前から散歩を行っているようですが、当園はまだ暫くは園庭と交通機関を利用して安心して遊べる遠方で、自然体験をする考えです。

今夏、福島県内の保育園や幼稚園、こども園の15園を訪問してみて、各園震災から6年目は前に進んでいる印象を受けました。私自身も、放射能によって未来を奪われた喪失感や閉塞感が薄らぐには、この時間が必要だったと感じています。この間、神様を抛りどころとして歩むことが出来たことは心強く、慰めでした。



社会福祉法人ちいろば会 原町聖愛こども園  
福島県南相馬市原町区二見町

※編集者注 1シーベルト (Sv) = 1000 ミリシーベルト (mSv) = 100 万マイクロシーベルト ( $\mu\text{Sv}$ )

## 2

## ふくしま・こうべこどもプログラム 2017 報告

「ふくしま・こうべこどもプログラム」 実行委員会委員長  
日本基督教団神戸イエス団教会 牧師  
上内鏡子（かみうちきょうこ）さん

「ふくしま・こうべこどもプログラム 2017」は、2011年3月11日の東日本大震災、そして、福島第一原子力発電所の事故による放射能漏洩による深刻な被害以来、神戸の12教会で何が出来るかを問い合いながら、放射能フリーのプログラムを1週間でもよいから企画をすることになりました。2012年より始めましたが、毎年、企画するかどうかを決断しながら、2017年は6回目を迎えました。神戸市内の旧葺合・灘・東灘にある12の教会が協力しながらの実施です。

毎年7月に実施してきました。今年は、2017年7月21日～27日の一週間でした。このうち第5日目に淡路島の国営明石海峡公園で思いっきり遊ぶ企画をしました。このプログラムの費用の一部をイエス団救援対策会議より支援していただきました。この場を借りて、心より感謝します。

当日は、すこし曇り模様でしたが、バスで淡路島に到着した頃にはすっかり晴れて、子どもたちは大喜びでした。

子どもたち9人、お母さんたち6人とボランティア等あわせ総勢31名で、国営明石海峡公園を訪れました。午前中一杯は、炎天下にも関わらず、緑の広場とプールで遊びました。野原では、サッカーなどのボール遊びを満喫しました。

放射能の影響で、草むらや野原、水辺では普段遊べない子どもたちは、この日ばかりは時間を忘れ、暑さを忘れて、懸命に遊んでいました。子どもたちが真剣に楽しんでいる姿に励まされ、わたしたち主催者側の大人たちも、真剣に一緒になって遊びました。水遊びやサッカーボールを追いかけるのは、かなりのハードな運動量でした。また、一方では、その様子を母親たちが、本当にうれしそうに眺めていました。わたしたちにとっては、何気ない日常の光景ですが、その光景が福島を中心に放射能の影響下では、すっかり失われてしまっていることを目の当たりした熱い時間でもありました。

プログラムの最終日、子どもたちが、一週間のプログラムを通して一番楽しかった事の中に、この公園での時間を挙げていたことは、企画したわたしたちも嬉しいです。また、女の子の親は、地元では年中長ズボンしかはかせていないので、子どもの気持ちを考える時、かなり我慢

していることを感じておられるようでした。神戸では、リボンやヒラヒラのスカートやワンピースを来ているのは、そんな意味があったことを知り、本当にご苦勞の日常を送っておられることを痛感しました。

また、このプログラムには、医師の山崎知行先生も同行して下さいました。山崎先生は、2011年より継続的に福島で住民の健康状態を診てきた医師です。心の悩みや健康状態の確認など、日常の不安や不明な事項に対しても、丁寧に応えて下さいました。山崎医師ご自身も、日常の不安な様子と違い、元気一杯の子どもたちを御覧になって、とても満足そうにしておられました。このプログラムを地道につづけることを強く希望されました。



### 3

## 2011年からのバザー等での宮古製品販売支援の売り上げ報告

2011年9月から継続してきた岩手県宮古市の障がい者施設でつくられた製品の販売支援ですが、2016年度末で計8,251,100円の売り上げを現地施設に送ることが出来ました。

イエス団と西宮ワイズメンクラブ（YMCAをサポートするクラブ）が協働して実施してきました。たくさんの施設のバザーでも販売をしていただいています。また、みなさんから毎年注文いただいているTシャツ、パーカーの売上もかなりの金額になっています。

ご協力に感謝してご報告させていただきます。これからも永く継続していけたらと思っています。ありがとうございます。

### \* 売上内訳

1	賀川記念館常設の宮古ショップの売り上げ	785,960円
2	バザー等の売上	2,639,840円
3	2012年～2016年：Tシャツ・ポロシャツ・パーカー売り上げ	4,825,300円
総計		8,251,100円

**\* バザー等での販売協力者**

西宮ワイズメンズクラブ・メネットクラブ、プラスワンネット、コープこうべサポートセンター、くずは光の子保育園、YMCA 保育園、のぞみ保育園、西神戸 YMCA リーダーOB、甲子園二葉幼稚園、甲子園二葉教会、一麦保育園、須磨教会、賀川記念館、友愛幼児園職員 OG、宇山光の子保育園、神戸雲内教会、堺福音教会、兵庫県ユニセフ協会

**4 募金のお願い**

「イエス団救援対策本部」ではイエス団関係各所に対し、被災された方々への救援のための活動資金や義援金のため 300 万円を目標金額とし募金をお願いしております。

**\* 募金振込先**

郵便(ゆうちょ銀行)振替口座		三井住友銀行 三宮支店	
口座番号	01140-8-75472	普通預金	9206516
加入者名	社会福祉法人イエス団	口座名	社会福祉法人イエス団
備考	通信欄に「救援募金」と明記してください。	備考	イエス団本部事務局までご一報ください。

- \* N E W** イエス団のHPからクレジットカードでのご寄付が可能になります。  
 イエス団HP <http://www.jesusband.jp> ※11月1日より受付開始

**熊本県西原村 にしはらたんぽぽハウス  
 ～ 商品紹介 ～**

イエス団が職員を派遣し、支援活動を続けてきた「にしはらたんぽぽハウス」は阿蘇の西原村にある作業所です。こちらのコーナーでは「たんぽぽハウス」で作っている商品をご紹介します。イエス団の各施設でも行事の際など販売協力をしているので、皆さん商品を見かけた際は是非お手に取ってみてください。バザーなどでの販売にもご協力ください。



➡ 阿蘇俵山  
 カレー  
 420 円

柚子胡椒  
 ドレッシング  
 350 円



**ミッションステートメント 2009**

わたしたちイエス団の実践は、1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす  
 わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす  
 わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす  
 わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす  
 わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日  
 社会福祉法人イエス団・学校法人イエス団